

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス くるん		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 1日		～ 令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 活動プログラムが固定化しないように工夫をしている 長期休暇等は戸外学習や社会体験も取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組んだ活動プログラム等については専用のアプリケーションを用いて保護者に写真と文章でお伝えするように工夫をしている。 固定化しないように、また長期休暇などは戸外活動の機会を多く取り入れている 	<ul style="list-style-type: none"> 専用のアプリケーションだけではなく、HPやInstagramを用いて外部への発信も行う。 児童の興味や課題に合わせた療育グッズの充実
2	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭の事情にも寄り添いつつ、長期休暇などの調整がおこなわれている。また昼食の提供も行い、保護者様への負担軽減に繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇に外出などの活動も多く取り入れるようにしている。また昼食作りの活動も重視し、自立に向けての支援も取り組んでいる。 活動予定表に避難訓練の日を記載している 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の意見も取り入れつつ、戸外活動や社会体験も固定化しないように活動の幅も広げていくようにする。
3	<ul style="list-style-type: none"> 個々の特性や年齢に応じて、個別の空間を提供できている。 児童の満足度 	<ul style="list-style-type: none"> 小グループや個別に取り組める活動内容の設定や職員の配置の工夫。 児童のそれぞれのペースに合わせて無理なく楽しく過ごす事ができるように配慮をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりの特性に応じたプログラムの設定や、職員向けの研修を行い、療育の質の向上に繋げていく。 保護者や児童の声に耳をかたむけ、さらなるニーズに応えたい

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブや、児童会館、地域の他の児童と交流する機会が少ない。また兄弟向けのイベントも行うことが出来ない。 他の児童と活動をする機会があるかについての評価が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 児童クラブや児童会館など密な空間となるため、感染症などのリスクを避けることが難しい 地域の児童と活動を行う機会を作ることができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会と並行して兄弟向けのイベントを企画していく。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様に対しての家族支援や研修会などの情報提供 ペアレントトレーニングや家族等が参加できる研究会が行われているかに対する評価が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者様への相談等に関しては迅速に対応し、助言やアドバイスはできているが、研修などの情報提供が不十分である。情報の収集や周知が必要。 場所や日程等の確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 地域サポートの力も借りながら情報収集を行い、周知を行っていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 定期的にSNSやHPなどでの情報発信ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 技術的にSNSやHPを扱える人が少ない その日活動記録が後日の更新になる事がある 	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が扱えるように使い方の共有を行っていく 毎日の更新ができるように時間を確保していく

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス くるん				公表日	令和7年 3月 31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	・活動場所を分けている
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・個別が必要な子と区別している		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・段差をなくしている ・各部屋に片付け方の見本の絵がある ・部屋にわかりやすいように名前がある		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	・活動内容によって部屋を使い分けている	・清掃はこまめにできたら良い →時間を有効活用する	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・勉強部屋、おもちゃ部屋など分けられている		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	1	・目標に向かっての支援が示されている	・週末に振り返りを入れる	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	1	・面談や会議をスタッフで行う ・全体会議など話す場がある	・ミーティングの数を増やす →隔週で時間が取れる時に行うようにする	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・強度行動障害の研修などどのような支援が必要か学ぶことができる		
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・内容と配置の共有 ・どのような支援が必要かを学ぶ機会が設けられている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・具体的にどのような療育をしていくのか、その子の課題は何か記載されている		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			・共有を行う →リーダーからの発信を促していく	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・カテゴリ別に様々な活動が決められていて、活動の目的になる療育を行っている		

提供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8		・具体的にどのような療育をしていくのか、その子の課題は何かが記載されている ・児童にあった活動内容を考え、将来のためになる狙いを決めている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	2		・その日に行う活動によってこの子はどのような支援をしていかなければいけないのかの共有が必要→児童のコンディションと共に変化すると思われるので担当者がある場合は情報発信をなるべく行う
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3		・1日ごとの反省点や改善点が必要 →当日行うのは時間が厳しいため翌日になる点があった場合は上げていくようにする
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・児童の1日の様子やどのような支援をしているのかが示されている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	8		・様々なカテゴリーの中から活動をきめており、全体的に支援をしている	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8		・緊急的に変更があるときなど、保護者や学校と連絡を共有している	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	8			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	1		
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	8			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・保護者に1日を通してどのような様子だったのかをイメージできるようにしている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1		・参加してもらえるための声掛け →声掛けとともに内容の工夫と充実を図る
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・保護者との面談など様子を聞いて把握することができている	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8			
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・インスタグラムをやっている ・事業所内での活動の様子など同意を得た上で公開をしている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	1	・個人情報が書かれているファイルがある棚には鍵がかけられている	・整理整頓の心がけ →出した場所にしまうように心がけていくとともに場所の固定化を行う
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		・夏祭りを行っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	1		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	1	・災害時の集合場所への確認 ・避難訓練を行い、避難場所やルールを把握できるようにしている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1	・発作などが起きた時の対処法を何度も共有している	事前ミーティングでの話し合い →可能性がある場合は事前に伝えるようにする
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・事前対策と声掛けをしている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・研修を受け、職員一人一人が意見を伝えられる機会がある	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8				